2010年　新年初詣会資料（平成22年1月23日）

駒込駅

駒込の由来・・・東征途上の日本武尊が味方の軍勢の人・馬などがその場所いっぱいに集まるのを見て「駒込みたり」と言ったという伝承に由来するという説や、原野に野生の駒(＝馬)が沢山群がっている様子からと言う説、馬の放牧場があったからなど諸説ある。

六義園

六義園は元禄8年(1695年)、五代将軍・徳川綱吉より下屋敷として与えられた駒込の地に、柳沢吉保自ら設計、指揮し、平坦な武蔵野の一隅に池を掘り、山を築き、7年の歳月をかけて築かれた「回遊式築山泉水庭園」である。
庭園の名称は、中国の古い漢詩集である「毛詩」の「詩の六義」、すなわち風・賦・比・興・雅・頌という分類法を、紀貫之が転用した和歌の「六体」に由来している。(広義の「和歌」の意味)
庭園は中之島を有する大泉水を樹林が取り囲み、紀州（現在の和歌山県）和歌の浦の景勝や和歌に詠まれた名勝の景観が八十八境として映し出されている。
明治時代に入り、岩崎家の所有となった当園は、昭和13年に東京市に寄付されて一般公開されることになり、昭和28年3月31日に国の特別名勝に指定された。面積は、87,809.41㎡

＊柳沢吉保(1658年12月31日～1714年12月8日)　＊ 綱吉(1646～1709)とは一回り違うが同じ戌年である。
柳沢吉保は、上野国館林藩士・柳沢安忠の長男として生まれる。(父安忠も綱吉に仕える)江戸時代前期の幕府側用人・譜代大名。家系は清和源氏の流れを引き、河内源氏の支流甲斐源氏武田氏の一門にて、武田氏武川衆に属した家柄。1675年館林藩主であった綱吉に小姓として仕える。(頭脳明晰・眉目秀麗)
その後も綱吉の寵愛を受け、1701年綱吉から吉の字を賜り、吉保と改名、松平姓を許された。
1704年甲府藩15万石の藩主となり、1706年には大老格となるが、綱吉薨去後は幕府の要職を降り、家督も吉里に譲り隠居した。

＊「詩の六義」　詩経大序にいう詩道を構成する6つの「体」　古今集序においける和歌の6種の風体

①「賦」…	ふ	感想をそのまま述べたもの。	かぞえ歌
②「比」…	ひ	比喩を用いて表す方法。	なずらえ歌
③「興」…	きょう	あることを言ってから本題を引き起こす方法。	たとえ歌
④「風」…	ふう	民間に行われる歌謡、各国の民謡。	そえ歌
⑤「雅」…	が	朝廷で歌われる雅やかで正しい音楽。	ただこと歌
⑥「頌」…	しょう	宗廟における祭りの音楽。	いわい歌

＊和歌三聖　柿本人麻呂　山部赤人　衣通姫(ことおりひめ)

染井霊園

染井霊園は豊島区駒込にある都営霊園。1872年に明治政府によって播州林田藩建部邸跡地に神葬墓地として開設された。1874年に東京府の管理下に置かれ宗教によらない公共墓地となる。面積は67,911平方メートル、およそ5,500基の墓があるが、8ヶ所ある都営霊園の中では最も規模が小さい。
約100本のソメイヨシノが植えられ、桜の名所としても親しまれている。
水戸徳川家の墓所があり、著名人としては、岡倉天心・幣原喜重郎・司馬江漢・高田早苗・高村光雲・高村光太郎・高村智恵子・二葉亭四迷・水原秋桜子・若槻禮次郎等の墓がある。

＊ 都営霊園　雑司ヶ谷霊園　青山霊園　谷中霊園　多磨霊園　小平霊園　八柱霊園　八王子霊園　染井霊園

＊ 染井吉野(ソメイヨシノ)

ソメイヨシノは、エドヒガンザクラ系のコマツオトメとオオシマザクラの交配で生まれた品種である。
その起源については、江戸中期1720～1735年ごろ、駒込の西福寺に墓の残る植木職人伊藤伊兵衛政武が人工交配・育成したとの説が有力であり、江戸末期には、「吉野桜」として売り出されたと伝えられる。
染井吉野という名は、上野公園の桜を調査した藤野寄命が明治33年「日本園芸雑誌」で最初に発表した名称であり、奈良の吉野山の桜と区別するために染井吉野と名付けられたと言われている。
染井吉野は種ができない品種のため、各地にある染井吉野は、接ぎ木により全国に広められたものである。全ての染井吉野は元をたどっていけば一本の染井吉野に遡ることとなる。(クローン桜)

＊ 東京スイミングセンター　・・・ 北島康介が所属するスイミングセンターである。運営は、㈱東京天理教館

とげぬき地蔵（高岩寺）

高岩寺（こうがんじ）は山号は萬頂山（まんちょうざん）と称する曹洞宗の寺院である。1596年（慶長1）扶嶽太助（ふがくたいじょ）が開基となって江戸・湯島に建立、のち下谷（したや）に移り、1891年（明治24）下谷より現在地に移転した。本尊は地蔵菩薩（延命地蔵）。一般にはとげぬき地蔵の通称で知られる。

＊とげぬき地蔵の由来　（トゲを抜く＝病気が治る）

正徳3年(1713年)、江戸小石川に住む武士の田付又四郎が妻の難病を癒すため、一心に地蔵菩薩に祈ると、夢枕に黒衣の僧が現れ、この御像を一万体紙に刷って川へ流せば平癒する」と告げた。枕元に置かれた御像を刷り浅草川に流すと、妻の病が回復したという。これが寺で配布している「御影」の始まりであるとされる。その後、毛利家の女中が針を誤飲した際、地蔵菩薩の御影を飲み込んだ所、御影に針が刺さって吐き出されたという伝承があり、「とげぬき地蔵」の通称はこれに由来する。

＊身代わり観音菩薩

本堂に向かい境内の左側に立つ石造の聖観音像で「洗い観音」と通称される。自身の治癒したい部分に相応する観音像の部分を洗う、または濡れタオルで拭くと病が治ると言われている。初代観音像は、現在のタオルではなくタワシで洗っていたため摩耗が激しく、また何者かに首を折られたりしたためコンクリートで補綴された痛々しいお姿であったが、1992年に彫刻家八柳尚樹の作による二代目観音像が誕生した。

眞性寺
江戸六地蔵の一

真性寺（しんしょうじ）は、東京都豊島区巣鴨にある真言宗豊山派の寺院であり江戸六地蔵の一つと知られる。山号は医王山。院号は東光院。本尊は薬師如来である。この寺の開基・創建年代等については不詳であるが、聖武天皇の勅願寺で行基菩薩が開いたものとも伝えられている。「地誌御調査上」（文久9年1826年）によれば、今から380年前、元和元年（1615年）に祐遍法印により中興開基（一度哀運にあったものを再建）が行われたのが記録として残っている。「江戸名所図会」にも描かれている名刹で、巣鴨では東福寺、西福寺と並び最も古い寺の一つであり、8代将軍徳川吉宗もたびたびこの寺に立ち寄ったとされる。

＊江戸六地蔵

境内の左手に、高さ2m68cm・蓮花台を含めると3m45cmの大きなお地蔵様が蓮座に趺座している。これは深川の地蔵坊正元が、宝永3年（1706年）に造立の願を発し、神田錦町の鋳物師太田駿河守正儀より鋳造された「江戸六地蔵」の一体である。江戸六地蔵は、京都六地蔵に因み、江戸の街道筋に尊体を安置し旅人並びに江戸の人々の安全を祈願した。江戸六地蔵は以下の通りである。
東海道＝品川寺（第一番）、奥州街道＝東禅寺（第二番）、甲州街道＝太宗寺（第三番）、
中山道＝真性寺（第四番）、水戸街道＝霊巌寺（第五番）、千葉街道＝永代寺（第六番）

＊江戸六地蔵の百万遍大数珠供養

毎年6月24日に行われる百万遍大念珠供養では、全長16m、541個の桜材の珠からなる大念珠を500～600名で廻し江戸六地蔵の供養を行っている。

西福寺

西ヶ原無量寺の末寺であり、新義真言宗に属し、藤林山と号する。本尊は阿弥陀如来である。この尊像は徳一大師の作といわれ、六阿弥陀詣で第一番の札所として知られる寺である。創立年代は明らかではないが、江戸初期の建立といわれ、伊勢津藩藤堂家の祈願寺であった。山門を入ると右手に「染井吉野の里」の碑がある。このあたりがソメイヨシノの発祥の地と伝えられており、寺の前の道路は桜の名所にあげられている。墓地には徳川将軍家の御用植木師だった伊藤伊兵衛政武の墓があり、植木職人の墓が多い。また、山門右手には明暦元年（1655）に造られた、豊島区内では最古といわれる六地蔵がある。

門と蔵のある広場

丹羽家は伊藤家と並び天明年間（1780年代）から明治末期まで染井を代表する植木屋であり、当地域の地主としても知られている旧家である。丹羽家の旧屋敷地は、北角の蔵と西隅の門が区の所有となって現地保存することになり、平成18（2006）年から豊島区の広場として整備が進められた。

＊旧丹羽家腕木（うでき）門

旧丹羽家の門は腕木門という形式で、簡素な構造であるが、格式のある門である。建築年代は不明であるが、当初材である親柱には和釘が使用されていることや、親柱、冠木、扉などの風蝕の様子、また、都内の類例との比較などから、江戸時代末期の建築と推定されており、言い伝えによれば、染井通りをはさんで向かい側にあった津藩藤堂家下屋敷の裏門を移築したともいわれている。江戸時代の腕木門としては区内唯一の事例であり、豊島区における貴重な文化遺産であることから、平成十九年八月三日、豊島区指定有形文化財となった。

＊旧丹羽家住宅蔵

この蔵は、昭和11年（1936）に建築された鉄筋コンクリート造りの蔵である。蔵は出入口を東西に設け、廊下で主屋とつながっていた。出入口の観音開きの鉄製扉の内側に家紋（五三桐）が付いている。また扉上部と両脇の柱に大理石が貼られるなど、装飾にも気が使われている。外壁は、昭和初期の土蔵や店舗などに多く用いられた工法であり、モルタル下地に大理石の砕石粒洗出し仕上げになっている。また外壁腰巻、水切り、雨押さえ、鉢巻などの細部や、窓の庇の銅板葺きなどに職人の丁寧な仕事ぶりが伺える。蔵の内部は、地下に収納庫を設け、床板には檜板を用い、壁はモルタル下地に漆喰塗りで仕上げられており、特に一階の天井や梁化粧面取りなどに当時の左官技術がよく表れており、意匠的にも評価が高い。このように、旧丹羽家蔵は、当時としては珍しい鉄筋コンクリート造りでありながらも、細部には職人の技術や建築主のこだわりが見られる。建築後七十年以上が経過しているが、昭和初期の建築当時の姿を残しており、これらの点が評価され、平成20年（2008）三月七日に国の登録有形文化財建築物に指定された。

旧古河庭園

旧古河庭園(きゅうふるかわていえん)は、武蔵野台地の斜面を巧みに利用した造りの庭園であり、台地上に洋館を、斜面上に洋風庭園、台地下の低地部に日本庭園が配置されている和洋融合の庭園である。
明治期の当地は陸奥宗光の邸宅であったが、宗光の次男潤吉が古河財閥創業者である古河市兵衛の養子となったため、古河家に所有が移り、1917年(大正6年)に古河財閥3代目当主の虎之助(市兵衛の実子)によって西洋館と庭園が造られ現在の形となった。
洋館と洋風庭園は、戦前に亘り多くの洋風建築を手掛けたジョサイア・コンドルにより設計され、日本庭園は近代日本庭園の先駆者として数多くの庭園を手掛けた七代目小川治兵衛(植治)により作庭されている。
現在は国有財産であり、東京都が借り受けて一般公開している。2006年(平成18年)には、大正時代初期の形式をよく留める庭園が評価され国の名勝に指定されている。面積は、30,780.86㎡

＊ 大谷美術館

J・コンドル最晩年の作で、大正6年5月に竣工した。躯体は煉瓦造、外壁は真鶴産の新小松石(安山岩)の野面積で覆われ、屋根は天然ストレート葺き、延床面積414坪の地上2階・地下1階となっている。洋館内部に巧みに和室を組み込み、和洋を調和させたコンドル晩年の作風を示す邸宅建築の代表作である。
大正12年9月1日に発生した関東大震災では約2千人の避難者を収容し、虎之助夫妻が引き払った15年7月以降は貴賓の為の別邸となった。また、昭和14年頃には後に南京政府を樹立する国民党の汪兆銘が滞在した。戦後は英国大使館付き武官の宿舎として利用された。

＊ ジョサイア・コンドル　(1852年9月28日 - 1920年6月21日)

イギリスのロンドン出身の建築家。お雇い外国人として25歳の時に来日し、辰野金吾ら、創生期の日本人建築家を育成し、建築界の基礎を築いた。のち民間で建築設計事務所を開設し、財界関係者らの邸宅を数多く設計した。河鍋暁斎に師事して日本画を学び、趣味に生きた人でもあった。コンドルの愛妻くめは若き日の日本舞踊の師匠である。大正9年、コンドルは、そのくめが亡くなったわずか11日後に、脳溢血でこの世を去っている。ふたりは文京区音羽の護国寺に葬(ほうむ)られている。

主な作品

旧東京帝室博物館本館-1882年竣工、1923年関東大震災により大破。現存せず。
鹿鳴館(華族会館)-1883年竣工、1940年取壊し
東京大学法文科教室-1884年竣工、関東大震災により大破。
岩崎弥之助深川邸洋館(現清澄庭園内)-1889年竣工、1923年関東地震により炎上。現存せず。
ニコライ堂(重要文化財)-1891年竣工
三菱一号館(丸の内2丁目)-1894年竣工、1968年取壊(2009年復元)
岩崎久弥茅町本邸(現在の旧岩崎邸庭園内の洋館および撞球室、重要文化財)-1896年竣工
岩崎弥之助高輪邸(現三菱開東閣)-1908年竣工
三井家倶楽部(現綱町三井倶楽部)-1913年竣工
旧諸戸清六邸(現桑名市六華苑、重要文化財)-1913年竣工
島津家袖ヶ崎邸(現清泉女子大学本館)-1915年竣工
古河虎之助邸(現在の旧古河庭園大谷美術館)-1917年竣工

＊ (七代目)小川治兵衛　(万延元年4月5日(1860年5月25日) - 昭和8年(1933年)12月2日)

近代日本庭園の先駆者とされる作庭家、庭師。通称植治(屋号)。山城国乙訓郡神足村(現在の京都府長岡京市)生まれ。1877年(明治10年)に宝暦年間より続く植木屋治兵衛である小川植治の養子になり、1879年(明治12年)に七代目小川治兵衛を襲名。平安神宮・円山公園・無鄰庵(山縣有朋公邸)・清風荘(西園寺公望公邸)・對龍山荘(市田弥一郎邸)・等 国の指定名勝・指定庭園の作庭を手掛ける。

＊ 葛西萬司　(文久3年7月21日(1863年9月3日)- 昭和17年(1942年)8月19日)

明治から昭和初期に活躍した建築家。盛岡市出身。辰野金吾と建築設計事務所を共同経営。
旧盛岡銀行本店本館(1911年、辰野葛西建築事務所)　旧中央停車場(現東京駅、1914年、左同)
旧第一銀行京都支店(のちDKB京都支店、1919年、同上、解体後イメージ復元)
旧山陽ホテル(1923年、同)　旧盛岡貯蓄銀行(現 盛岡信用金庫本店、1927年、葛西建築事務所)
順心女子学園(1934年、葛西田中建築事務所)　の他旧古河庭園書庫も手掛ける。

西が原一里塚

本郷通りは江戸時代では岩槻街道と呼ばれ、歴代将軍が日光東照宮に参拝する道であったため、日光御成道とも呼ばれた。1604年に江戸幕府は江戸日本橋を起点に街道を整備し、1里(約4km)ごとに一里塚を設置した。当一里塚は、本郷追分の次の一里塚であり岩槻街道の2番目に設けられた一里塚であり、23区内には18カ所あったといわれている一里塚ではあるが、当時の位置そのままに保存されている都内唯一の一里塚であり、大正11年3月8日には、国史跡に指定された。なお、大正時代には道路改修工事にともない撤去されそうになったが、渋沢栄一等を中心とする地元住民の運動によって塚の保存が実現した。
ちなみに、旧道をはさんで一対の塚が現存しているが、二つの塚に挟まれた部分が江戸時代の街道の道幅である。

王子神社

創建は詳らかではないが、源義家の奥州征伐の折、当社の社頭にて慰霊祈願を行い、甲冑を納めた故事も伝えられている。その後、元亨2年（1322年）、領主豊島氏が紀州熊野三社より王子大神をお迎えし、改めて「若一王子宮」と奉斉し、熊野にならって景観を整えたといわれている。それよりこの地は王子という地名となり、神社下を流れる石神井川もこの付近では特に音無川と呼ばれている。 徳川時代に入ると初代家康公は天正19年（1591年）、朱印地二百石を寄進し、将軍家祈願所と定め、代々将軍の崇敬篤く、「王子権現」の名称で江戸名所の1つとなっていた。特に八代吉宗公は紀州徳川家の出自のため、この地に紀州ゆかりの当社があることを大いに喜び、元文2年（1737年）に飛鳥山を寄進、桜を多く植えて江戸庶民遊楽の地とした。これが今に残る花の飛鳥山（現飛鳥山公園）の基となったものである。

＊ 末社 関神社

全国でも珍しい「髪の祖神」。関神社は、かつて滋賀県・大津の逢坂山に祀られていましたが、江戸時代に王子神社に奉斎された。御祭神は延喜帝の第4皇子である蝉丸公である。蝉丸公は、琵琶の名手であり、和歌に長けた人物としても知られている。その蝉丸公の姉「逆髪姫」の髪の毛が逆毛で、悩み悲しむ姉のために初めて「かもじ（かつら）」を考案したのが蝉丸公であると言われ、以来、蝉丸公は「髪の祖神」と呼ばれ、かつら、床山、美容関係者など理髪業界から特に信仰を集めるようになった。また蝉丸公は「音曲諸芸道の祖神」としても崇敬されている。お堂は戦災で焼失したが、髢・鬘・床山、舞踊・演劇などの関係業界の尽力により、昭和34年に再建された。境内には毛髪供養のために建てられた「毛塚」があり、薄毛や頭髪に関する悩みを抱えた人も多く祈願に訪れているそうである。

＊ 毛塚

毛塚の由来 釈尊が多くの弟子を引き連れて、祇園精舎に入られたとき貧女が自らの髪の毛を切り、油に変えて献じた光が、大突風にも消えることなく煌煌と輝き世に貧女の真心の一灯として髪の毛の尊さと共に、毛髪最古の歴史なりと永く言い伝えられる由縁である。

王子稲荷神社

落語『王子の狐』で有名な神社であり、北川広重の「名所江戸百景」にも描かれている由緒ある稲荷社である。創祀年代は不詳だが、社伝に「康平年中、源頼義、奥州追討のみぎり、深く当社を信仰し、関東稲荷総司とあがむ」との伝承があり、古くは、「東国三十三国」の稲荷の頭領であったとのことである。また、当稲荷社は、毎年大晦日の夜、諸国のキツネ、社地の東、古榎のあたりにあつまり、装束をあらためるといわれ、江戸時代、狐火で有名であった。(装束稲荷神社というものが王子稲荷神社東方存在する)現在も大晦日の行事として、毎年大晦日の除夜の鐘とともに近くの王子装束えのきを出発する、地元の人たちによる「大晦日狐の行列」が行われており、今年で18回を数える。

名主の滝公園

江戸時代後半、王子村の名主畑野孫八が屋敷内に滝を開き、茶を栽培して一般に開放したのが始まりで、名前の「名主」はそこに由来する。実際の築庭は不明であるが、嘉永3年（1850）の安藤広重による「絵本江戸土産」に描かれた「女滝男滝」が名主の滝に あたると思われるので、少なくともそれ以前には存在していたものと考えられる。明治中期には貿易商垣内徳三郎の所有となり、塩原の風景を模して庭石を入れ、ヤマモミジなどを植栽、渓流をつくり一般に供した。1938年（昭和13年）には精養軒が買収し食堂などを営業していたが、戦災で焼失。1960年（昭和35年）に東京都によって公園として整備され、その後北区に移管され、今日に至っている。

園内には、男滝（おだき）、女滝（めだき）、独鈷の滝（どっこのたき）、湧玉の滝（ゆうぎょくのたき）の4つの滝が復元されており、地下水をポンプで汲み上げて水を流している。

＊ 王子七滝

江戸時代から明治にかけて、この辺り一帯は音無し渓谷と呼ばれ、不動の滝、弁天の滝、権現の滝、稲荷の滝、大工の滝、見晴らしの滝、名主の滝などの王子七滝がつらなる名所であった。

① 権現の滝　音無親水公園
③ 不動の滝　正受院
④ 弁天の滝　音無もみじ緑地(松橋弁財天)
⑤ 稲荷の滝　王子稲荷
⑥ 名主の滝　名主の滝公園
⑦ 大工の滝　岸町2-2-3辺り
⑨ 見晴の滝　岸町2-6-14辺り

東京都立染井霊園MAP

～霊園は故人が眠る慰霊の場所です。節度を持った行動をお願いします。～

「あの人」との対話を――。

このマップは、染井霊園と、隣接する寺院に眠る人々の連環を巡って「点」が「線」となるように墓石を紹介しています。ご紹介している文化人に関連する人物の墓石は数字で表しました。

墓石をたどると、つながりあう人たちに交わされる会話まで聞こえてくる気もします。桜に彩られる霊園で、心に思う泉下の「あの人」との対話を楽しんでみませんか。

ご存知、桜吹雪の金さん
遠山金四郎景元
とおやま きんしろうかげもと
(1793～1855)
江戸時代の旗本。江戸町奉行を勤めた。小説・ドラマの『遠山の金さん』などでその名を知られる。

「生」に苦悩した理知派
芥川龍之介
あくたがわ りゅうのすけ
(1892～1927)
東京帝国大学(現東京大学)在学中、『新思潮』に発表した『鼻』が夏目漱石に激賞され文壇に登場する。谷崎とは「小説の面白さ」について論争した。

美意識の深淵を抱く
谷崎潤一郎
たにざき じゅんいちろう(1886～1965)
東京帝国大学(現東京大学)在学中、『新思潮』に発表した『刺青(しせい)』が永井荷風に激賞され文壇に登場する。官能的・耽美的な作風で知られる。

重商主義経済を推進
田沼意次 たぬま おきつぐ
(1719～1788)
第十代将軍徳川家治に寵愛され、家禄六百石から、五万七千石の相良(さがら)藩大名になり、「田沼時代」といわれる全盛期を成した。

気骨ある明治新聞人
陸羯南 くが かつなん(1857～1907)
1種イ8号10側
1889年、新聞『日本』を創刊。民族文化の再発見、再生を論じた。正岡子規を社員として短歌、俳句の革新運動に尽力。この俳句革新運動が雑誌『ホトトギス』を生んだ。短歌革新運動では、❺萩野由之(はぎのよしゆき)もここに。

「主観」の尊重
水原秋桜子
みずはら しゅうおうし(1892～1981)
1種イ3号1側
本名・水原豊。高浜虚子に師事し、俳句雑誌『ホトトギス』に参加。「ホトトギスの四S」と称されたが、やがて虚子の「客観写生」に対して「主観」を唱えて対立し、俳句雑誌『馬酔木(あしび)』を主宰した。『ホトトギス』で活躍した❹阪本四方太(さかもとしほうだ)がここに。

言文一致の先導者
二葉亭四迷
ふたばてい しめい(1864～1909) **1種イ5号37側**
本名、長谷川辰之助。筆名は、文学に志すことを嫌った父から「くたばってしめえ」と怒鳴られたことに由来するという。小説『浮雲(うきぐも)』で写実文学、言文一致の文体を先導した。同じく言文一致の小説家・❸山田美妙(やまだびみょう)もここに。

日本美術の先覚者
岡倉天心 おかくら てんしん
(1863～1913) **1種イ4号14側**
東京美術学校(現東京藝術大学)設立の起動者となり、29歳で第二代校長。辞職後、日本美術院創設、横山大観らを育てる。後にボストン美術館の中国・日本美術部長。東京美術学校初代校長の❻浜尾新(はまおあらた)、天心と演劇改良運動を共にした元・早稲田大学総長の❶高田早苗(たかださなえ)もここに。

情熱と理想の教育家
巌本善治 いわもと よしはる(1863～1942)
若松賤子 わかまつ しずこ(1864～1896) **1種イ4号13側**
巌本は、明治女学校の第二代校長。相馬黒光、羽仁もと子、野上弥生子らが学んだ。❷坪井正五郎(つぼいしょうごろう)は同校講師。『小公女』を本邦初訳した若松賤子は、巌本の妻。孫のバイオリニスト巌本真理(いわもとまり)も葬られている。

清らかな意志の人
高村光太郎
たかむら こうたろう(1883～1956)
高村智恵子
たかむら ちえこ(1886～1938)
高村光雲
たかむら こううん(1852～1934)
1種ロ6号1側
光太郎は妻・智恵子の死後、詩集『智恵子抄』で国民的人気を博す。戦後、戦争責任を自ら問い、岩手県の山奥にこもる。父・光雲は、明治の木彫の第一人者。岡倉天心に招かれて東京美術学校教授となる。上野公園《西郷隆盛像》の作者。

長池 ながいけ
かつて、巣鴨御薬園に沿って一段低地となっているところに長池という池があり、谷戸川(藍染川)が流れ出て、霜降橋をくぐり、台東区谷中を流れ、不忍池にそそいでいた。

二十一世秀哉(しゅうさい・1874～1940)までの囲碁本因坊代々の墓も。

蘭学者で画家の司馬江漢(しばこうかん・1747～1818)も眠る。

園芸の地の駒込・染井を代表する江戸時代の植木屋、伊藤伊兵衛(いとういへい)家の居宅跡。(四代目政武の墓は駒込六丁目の西福寺にある。)

染井霊園 MAP

巣鴨御薬園跡 すがもおやくえんあと

霊園の西にある東京都中央卸売市場豊島市場は、かつて「巣鴨御薬園」でした。寛政10年（1798）ごろに薬用植物の栽培地となり、綿羊を飼い、ラシャ織りを試作して、「綿羊屋敷」とも呼ばれました。

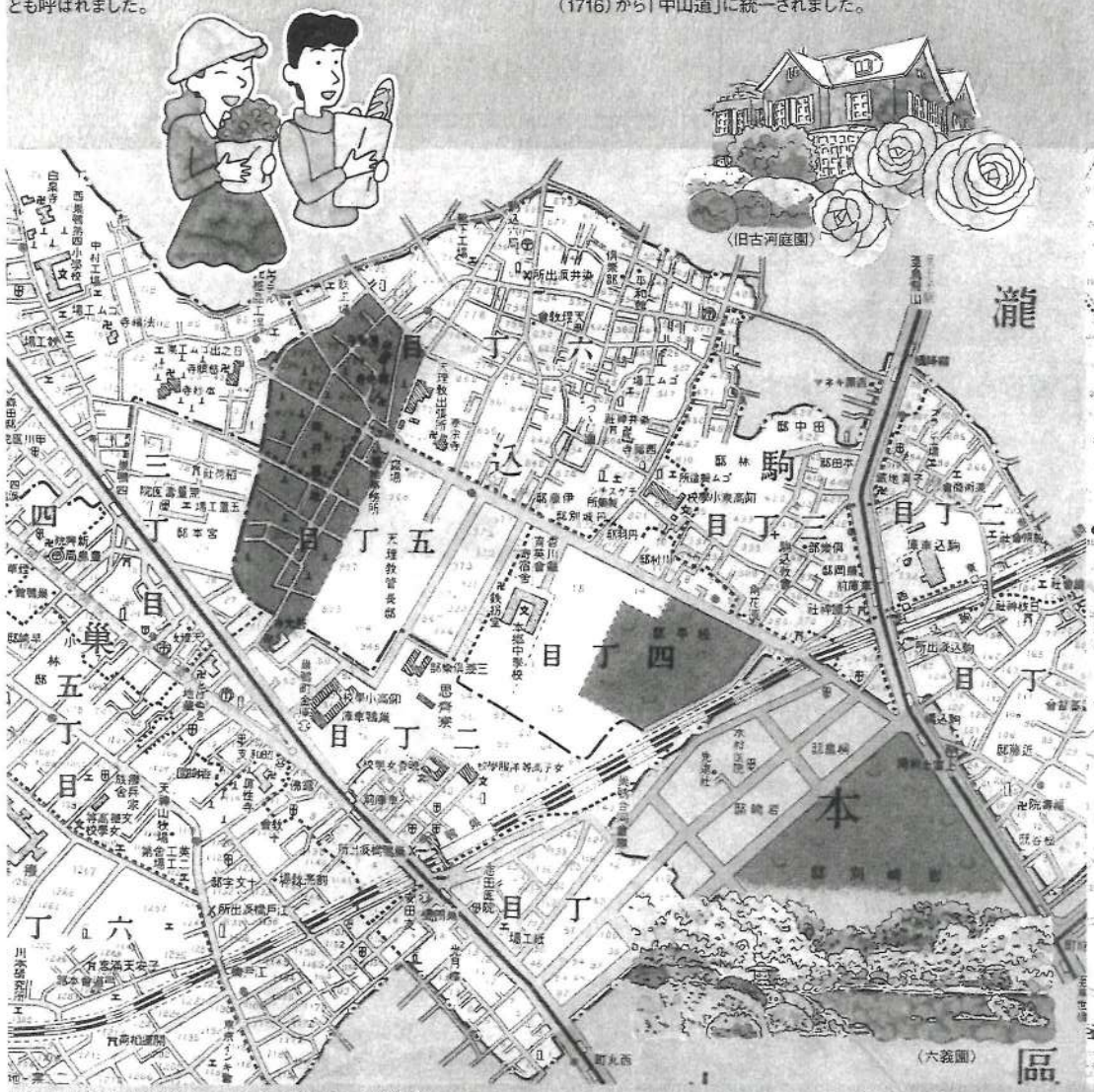
旧中山道

本郷追分で岩槻街道と分かれ、巣鴨駅前を通る江戸五街道の一つです。江戸六地蔵の眞性寺、とげぬき地蔵の高岩寺門前を通ります。はじめは「中仙道」と書きましたが、正徳6年（1716）から「中山道」に統一されました。

駒込・染井の地

江戸時代の切絵図で見ると「比辺染井村、植木屋多シ」と書き込まれています。名花「ソメイヨシノ」を生み出した土地であり、ツツジや菊づくりを広めた園芸家たちの集まるところでした。

駒込駅前を南北に通る本郷通りは、日光街道に続き、将軍の日光参詣の行列の通る街道でした。現在、通り沿いには六義園（りくぎえん）、バラと洋風建築が美しい旧古河庭園（きゅうふるかわていえん）、お花見で有名な飛鳥山（あすかやま）がつづく緑豊かな地域です。



「番地入新大東京市三十五区分図之内　豊島区詳細図」（部分　1933年発行）
（豊島区立郷土資料館編集「豊島区地域地図　第1集」（1987年発行）所収のものを使用）

染井霊園

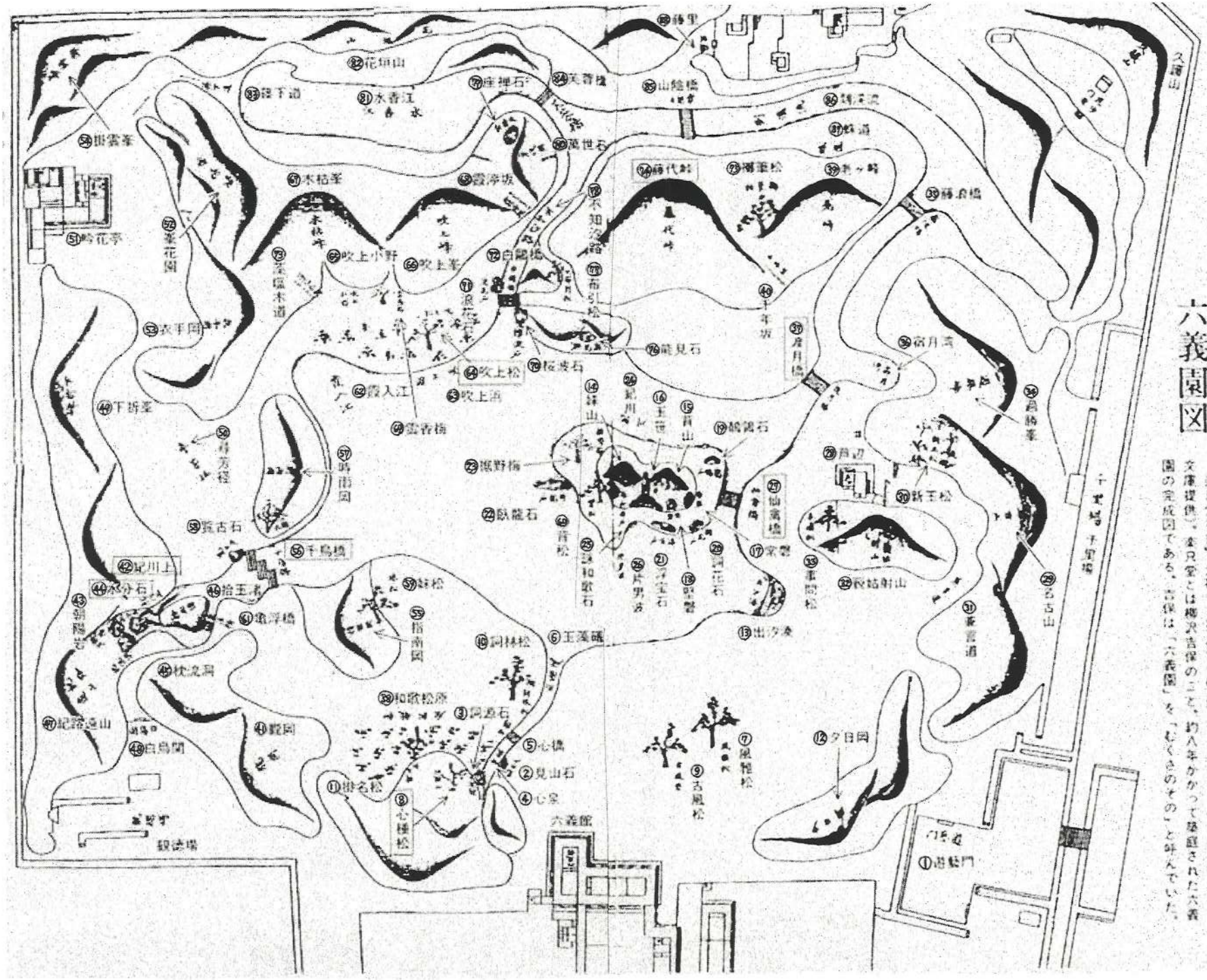
播州林田藩（兵庫県）建部（たけべ）家の抱屋敷跡地で広さは約6万8千㎡です。僧侶の山田文應（やまだぶんおう）の努力で共同埋葬墓地として開かれ、明治7年（1874）9月1日、東京府が引き継いで開設しました。幕末から明治にかけて活躍した大名や活動家、学者らが多く眠るところです。現在の地番は、駒込五丁目5番。駒込駅、巣鴨駅いずれも近くです。

駒込のソメイヨシノ

旧丹羽家の蔵

豊島区 観光案内

発行：豊島区文化観光課
東京都豊島区東池袋1-18-1
TEL：03-3981-1316　FAX：03-3981-3069
E-mail：A0014503@city.toshima.lg.jp
執筆：伊藤榮洪（豊島区図書館専門研究員、元区史編纂委員）
イラスト：矢口由美子（デザイン室あとりえ）
2010年1月発行
豊島区観光案内ホームページ
http://www.city.toshima.lg.jp/bunka_kankou/



「柳只堂年録」元禄十五年（一七〇二）十月二十一日の項の付図（柳沢文庫提供）。柳只堂とは柳沢吉保のこと。約八年かかって整備された六義園の完成図である。吉保は「六義園」を「むくさのその」と呼んでいた。

＊八十八境

	ユキノモン		ヤマミルイシ		シケンセキ		ココロノイズミ		ココロノハシ		タマモノイソ		カゼタダシキマツ		シンシュノマツ
1	遊藝門	2	見山石	3	詞源石	4	心泉	5	心橋	6	*玉藻磯*	7	風雅松	8	心種松
	コフウショウ		シリンショウ		ナカクルマツ		ユウヒノオカ		デシオノミナト		イモヤマ		セヤマ		タマササ
9	古風松	10	詞林松	11	掛名松	12	夕日岡	13	*出汐湊*	14	*妹山*	15	*背山*	16	玉笹
	トキハ		カキハ		セキレイイシ		コトバノハナイシ		フホウセキ		ガリュウセキ		スソノノウメ		キノカワ
17	常盤	18	堅盤	19	鶺鴒石	20	詞花石	21	浮宝石	22	臥龍石	23	裾野梅	24	紀川
	エイカセキ		カタオナミ		タズノハシ		アシベ		ナモフルヤマ		ニイタママツ		カネコトノミチ		ハコヤノヤマ
25	詠和歌石	26	片男波	27	仙禽橋	28	*芦邊*	29	名古山	30	*新玉松*	31	兼言道	32	藐姑射山
	コトトウマツ		スキカテノミネ		フジナミノハシ		ツキヤドルワダ		トゲツキョウ		ワカノマツバラ		オイガミネ		チトセザカ
33	事問松	34	過勝峯	35	藤浪橋	36	宿月湾	37	渡月橋	38	和歌松原	39	老ヶ峰	40	千年坂
	オボロノオカ		キノカワカミ		アサヒノイワオ		ミズワケイシ		マクラナガシノドウ		タマヒロウナギサ		キジノトウヤマ		シラトリノセキ
41	朧岡	42	*紀川上*	43	朝陽岩	44	水分石	45	枕流洞	46	拾玉渚	47	紀路遠山	48	白鳥関
	シモオリノミネ		ハナトウコミチ		キンカテイ		ミネノハナゾノ		コロモデノオカ		クモカカルミネ		シルヘノオカ		チドリバシ
49	下折峯	50	尋芳径	51	吟花亭	52	峯花園	53	衣手岡	54	掛雲峯	55	指南岡	56	千鳥橋
	シグレオカ		ランコセキ		イモノマツ		セノマツ		キフキョウ		カスミイリエ		フキアゲノハマ		フキアゲノマツ
57	時雨岡	58	覧古石	59	妹松	60	背松	61	亀浮橋	62	*霞入江*	63	吹上浜	64	吹上松
	フキアゲノオノ		フキアゲノミネ		コガラシノミネ		カスマヌサカ		ウンコウバイ		オウハセキ		ロウカセキ		カモメノハシ
65	吹上小野	66	吹上峯	67	木枯峯	68	霞渟坂	69	雲香梅	70	桜波石	71	浪花石	72	白鴎橋
	モシオギノミチ		フジシロトウゲ		フデステマツ		ノウケンセキ		ヌノヒキマツ		シラヌシオジ		ザセンセキ		ヨロズヨノオカ
73	藻塩木道	74	藤代峠	75	擲筆松	76	能見石	77	布引松	78	不知汐路	79	座禅石	80	萬世石
	スイコウノエ		ハナカキヤマ		ススノシタミチ		フヨウキョウ		ヤマカゲバシ		センケイノナガレ		ササカニノミチ		フジサト
81	水香江	82	花垣山	83	篠下道	84	芙蓉橋	85	山陰橋	86	剡渓流	87	蛛道	88	*藤里*

＊十二境

初入岡	染そはん色ぞまたるるをく露にまだ初しほの岡のもみじ葉	伏見宮中務卿　中書令邦永
玉藻磯	陰うつす底の玉藻もおなじいろにみどりぞふかき磯の山松	大納言　亜槐宗顯
出汐湊	松たてる出しほのみなと風こえてちとせのかずに浪もよすらし	梅小路従二位　光禄大夫共方
妹與背山	いもとせの山のしたゆく川みつにうつるや松も相生のかげ	日野中納言　黄門輝光
新玉松	さかゆべき生さき見えて今よりや新玉松の陰しげるらん	従三位　銀青光禄大夫有慶
芦辺	むれてすむ田鶴も千とせの声そへよわかの浦はをうつすあしべに	従二位　特進公通
藤代根	春秋をわくとしもなし花ならぬ藤代の根の松のみどりは	冷泉参議　諫議大夫為綱
若松原	立つゞく波のみどりも春秋の色にぞこゆるわかの松ばら	清水谷　特進実業
紀川上	みずやこのなぎさを清み玉ひろふきの川上の水の岩がね	東園　黄門基長
嶺花園	にほへるをあかぬ心の色そへて千とせの春にみねの花園	外山　光禄大夫光顯
霞入江	おもかげにおなじかすみの名をとめて入江の春や後も忍ん	武者小路参議中将　八座親衛実陰
藤里	なつかしくさく花かつら千代かけてすむともあかじ春の藤里	特進重條

＊八景

若浦春曙	和歌の浦の松のみどりも色そへて霞ぞあかぬ春の明仄	中書令邦永
筑波陰霧	つくばねの峯は朝日の影はれてすそはの田井に残る秋霧	特進重條
吟花夕照	しばし猶入日のあともくれやらでひかりを残す花そめかれぬ	光禄大夫共方
東叡幽鐘	きゝわたすあづまの比えの山かぜにたぐふも遠き入相のかね	光禄大夫光顯
軒端山月	いづるより月もへだてずむかふよの軒ばぞ山のかひは有りける	八座親衛実陰
芦辺水禽	浪たゝぬあしべもとめて水鳥のなれもしづけき心とやすむ	左金吾為綱
紀川涼風	けふも又涼しさあかで紀川や岩こす波にかよふ秋かぜ	黄門輝光
土峯晴雪	峯といふみねゆく雲のうへはれてあふげば高き富士のしら雪	特進実業

まほろば会行程

① 駒込駅
② 六義園
③ 染井霊園
④ とげぬき地蔵
⑤ 真性寺
⑥ 昼食
⑦ 西福寺
⑧ 門と蔵のある広場
⑨ 旧古河庭園
⑩ 西ヶ原一里塚
⑪ 王子神社
⑫ 王子稲荷神社
⑬ 名主の滝公園
⑭ 王子駅

～ 観光スポットをめぐられる方へのお願い ～

1) 見学・拝観の際には、マナーを守って他の方々に迷惑がかからないようにしましょう。
2) 施設内では、施設のルールに従って行動しましょう。拝観できない場所への立ち入りはご遠慮ください。
3) ごみは持ち帰りましょう。
4) 場所によっては、交通量の多い箇所がありますので、くれぐれも事故のないようにご注意ください。

北区コミュニティバスルート図

田端循環ルート停留所

1. JR駒込駅
2. 駒込一丁目
3. 田端三丁目
4. 田端区民センター
5. 田端二丁目
6. JR田端駅
7. 田端五丁目
8. 富士見橋エコー広場館
9. 中里保育園
10. 女子聖学院
11. 滝野川福祉保健センター
12. 滝野川小学校
13. 踏降橋
14. JR駒込駅

王子・駒込ルート停留所

1. JR王子駅
2. 王子本町交番
3. 障害者福祉センター
4. 中央図書館（赤レンガ図書館）
5. 王子アパート
6. 紅葉橋
7. 北区役所
8. 飛鳥山公園
9. 一里塚
10. 印刷局東京病院
11. 旧古河庭園
12. 滝野川小学校
13. 踏降橋
14. JR駒込駅
15. 踏降橋
16. 滝野川小学校
17. 旧古河庭園
18. 印刷局東京病院
19. 一里塚
20. 飛鳥山公園
21. JR王子駅

1 : 12,500

0 100 200 500 1000m

凡例							
	◎	区役所	文	小・中・高校		公園・緑地	
	⊗ ×	警察署・交番	•	その他の施設	駐	駐輪場	
	⊗ Ⓨ	消防署・消防署分署	卍	神社・寺院	男 女	一般トイレ・男女別共用トイレ	
	〒	郵便局	●	観光スポット		バス停	
	病	病院・医院	説	文化財説明板	湯	銭湯	
	大 短	大学・短大	会	花・木の見所	P	駐車場	